
おわりに

賀数いづみ（看護学部長）

科目の新設の経緯と実際

2022年度4月より新カリキュラムを施行した。1年次の新設科目は「災害看護」(1単位)、「島嶼・国際保健看護実習」(1単位)、そして1単位増の「看護大学ゼミナールⅠ」(2単位)が通年科目で開講した。

1年次後期の「災害看護」は多様な立場の実践者を招聘して講義が展開されており、学生の興味・関心は高く熱心に学んでいる。また、「島嶼・国際保健看護実習」では看護の対象を広い視野で理解する意義を学修している。「島嶼・国際保健看護実習」は、台風接近の影響で船の運航中止が予測されたため、訪問予定の離島を急遽変更するなど柔軟な対応によって架橋離島も含め全員が臨地での実習ができた。学生たちの実習後のレポート等から、島での暮らしや県内で生活する外国人との交流を通して多様性を学んでおり、実習目標を概ね達成できたと評価できる。通年開講の「看護大学ゼミナールⅠ」は学生の主体的学びを促進する科目であり、多様な地域活動へ学生の能動的な取り組みがみられた。グループ活動を中心に地域の地区組織と協働でのビーチクリーン活動や地域でのイベント開催企画への参加・協力、他大学の栄養学科との共同レシピの考案及び学校給食への提供など、活発な活動を展開していた。

2023年度は2年次前期の新設科目「保健看護包括実習」(3単位)の実施が大きな課題であった。従来の各領域実習科目Ⅰを包括的に統合した科目であり、4月中旬から8月上旬まで毎週金曜日の実習である。実習期間中、台風接近による実習中止や最終報告会も暴風警報発令で中断となるなど台風の影響は大きかった。補習実習の対象人数も多かったため、授業との重なりなどから希望する期間に臨地での補習実習計画ができず、コロナ禍で実施した学内実習を活かして学内でゲストスピーカーを活用した補習実習もあった。補習実習の計画調整に時間を要したことは今後の課題である。また、今年度初めて展開する実習科目であり、学生や教員、実習施設側も慣れていないことによる課題もあった。次年度は、今年度の課題をふまえて各施設との丁寧な実習調整や具体的な学生へのオリエンテーションの実施が求められる。2年次後期の新設科目「看護過程展開演習」は、オムニバスで各領域教員が担当したが、3年次の演習・実習とのつながりは次年度以降の評価となる。

新カリキュラムの展開は、中途であり全体評価はまだ先であるが、各学年において新設科目を積み重ね、地道に課題改善に努め、新カリキュラムへの円滑な移行が重要となる。

新カリ完成（2025）年度に向けて

2024年度は新カリキュラムで3年次後期は演習・実習が長期の展開となる。また、カリキュラム移行期のため、従来カリキュラムの4年次前期と新カリキュラムの3年次後期に展開する同様な実習科目があるため、学生及び教員の体調管理が必要である。完成年度には、新設の「在宅保健看護演習」(1単位)、単位増の「在宅保健看護実習」(2単位)、「地域保健看護実習Ⅰ・Ⅱ」も4年次前期に変更になるため、実習先とのより丁寧な調整や新たな演習・実習展開方法の構築等が求められる。さらに、従来カリキュラム履修学生への合理的な履修計画実施が重要であり、より一層の関係者の連携・協力、理解が必要となる。
